

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-----------------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 0177500204 | | |
| 法人名 | たきかわ介護福祉サービス株式会社 | | |
| 事業所名 | グループホーム ともだちの家 ユニット I | | |
| 所在地 | 滝川市西町2丁目3番47号 | | |
| 自己評価作成日 | 令和2年9月17日 | 評価結果市町村受理日 | 令和2年10月21日 |

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

| | |
|-------------|---|
| 基本情報リンク先URL | https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0177500204-00&ServiceCd=320 |
|-------------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|-----------------------|
| 評価機関名 | 株式会社 サンシャイン |
| 所在地 | 札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F |
| 訪問調査日 | 令和2年10月5日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事務的ではなく、人と人としての接し方を心がけ、清潔、整頓された空間で自宅に居るような安心感で個人個人がのびのびと自分の力を発揮して楽しく生活できる様支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム ともだちの家」は、JR滝川駅から徒歩圏内の住宅地に建っている2ユニットの事業所である。平屋建ての共用空間は明るく清潔で、居間も広く外の景色を眺めながらゆったりと過ごせる環境になっている。開設17年が経過しており、管理者と職員は住み慣れた地域でお互いさまの心を持ち続ける理念のもとに、周辺にある3世代交流センター、公園、コンビニエンスストアなどを活用し、住民と交流する機会を積極的に行っている。昨年までは町内会行事や地域の催しに多く参加するとともに、事業所の場所を提供し住民と共に楽しめる「いきいき百歳体操」や「認知症カフェ」を実施している。今年は新型コロナウイルス感染防止で地域の催しが中止になり、住民との交流機会は難しくなっているが周囲を散歩したり、家族の支援も得て可能な限り行っている。市の企画「認知症月間」の展示で地域包括支援センターの呼びかけに協力して色紙細工で作製した作品を提供し、共同での作品作りを楽しむ機会にもなっている。外出計画が難しい状況で事業所内のレクリエーション活動や、いきいき体操を継続したり、好みのお出前を取り寄せるなど、食事やおやつ作りにも参加し食べる楽しみを企画している。職員は明るく笑顔で利用者寄り添い、自立面を大切にしながら温かなケアを日々丁寧に行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価及び外部評価結果

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価(ユニットI) | 外部評価(事業所全体) | |
|-------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I.理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | 1 | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 毎朝の申し送りで理念を唱和し、実践へつなげられるようにしている。 | 運営理念の中に地域密着型サービスの文言が入っており、職員は意識して地域での暮らしを支えている。理念の唱和やカンファレンスの際に内容を確認し、地域住民との交流を実践している。 | |
| 2 | 2 | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | コロナ禍以前は地域住民といきいき体操を実施したり、町内行事などに参加していたが、現在は難しい状況である。 | 昨年は町内会行事や地域の催しに参加していたが、コロナウィルス感染防止から各主催側の中止で住民との交流は難しい状況にある。今年は市の企画に協力し図書館コーナーに利用者の作品を提供して地域との関りにつなげている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 現在は様々な受け入れや催しが開催できず、以前の様にはできないが、滝川市の認知症月間の展示に利用者の作品を提供するなどして、できる事を少しずつしている。 | | |
| 4 | 3 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | コロナに配慮しながら、書面会議や会議開催など状況に合わせて開催している。 | 書面会議を含めて定期的開催し、防災、感染症、外部評価などを議題にしている。年度始めに会議計画を送り、毎回は通信に載せて伝えている。家族の参加が難しいので、今後は会議案内を送り、意見が反映できるように考えている。 | |
| 5 | 4 | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 市の担当者他、包括支援センターとも必要時には速やかに連絡を取り、相談などをして、協力関係を築く努力をしている。 | 行政担当者とは顔馴染みになっており、常に相談できる関係を築いている。事業所内の場所を提供し「いきいき百歳体操」や「認知症カフェ」を行い、市の取り組みにも積極的に協力している。 | |
| 6 | 5 | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 研修会への参加、報告などで学びの場を提供する事により、身体拘束をしないケアへの意識を高める努力をしている。 | リーダを中心に、職員の言動が抑制になっていないかを利用者ごとチェック表を用いて毎月確認し、委員会に報告している。全体会議やカンファレンスで勉強会を行い、コロナウィルス感染防止で利用者がストレスにならないよう対応を話し合い、思いに寄り添ったケアを行っている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 研修会への参加、報告などで学びの場を提供する事により、虐待防止への意識を高める努力をしている。 | | |

グループホーム ともだちの家

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価(ユニットI) | 外部評価(事業所全体) | |
|------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 制度の活用が必要な時にはその都度話し合い、活用できるようにしていきたい。講習会に参加している職員もいるが、参加していない職員へは勉強会で学んでもらっている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居前に見学や説明などを行い理解は得ているが、実際の生活の中で様々なケースが発生した時にはその都度説明、理解を得て信頼関係を失わない様になっている。 | | |
| 10 | 6 | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 堅苦しくならないように面会時やケアプラン説明時にさりげなく意見をくみ取る努力をし、必要時には都度対応していく。 | 家族の来訪時に意向を聞き反映している。コロナウイルス感染防止から状況に応じて、玄関内や居室での対応もあるが意見などは共有している。今後はコロナ禍で家族が安心できるように、毎月のお便りに詳細な情報で伝えたいと考えている。 | |
| 11 | 7 | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 直接的にはないかもしれないが、職員会議などでの意見を反映させる事はある。 | 会議で意見を交換し、備品などの提案も即改善している。感染症マニュアルにコロナ感染防止を追加し、職員間で確認しながら対応している。日々リーダーや管理者に気軽に相談できるように配慮している。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | シフト調整、有給休暇など、働きやすい様最大限努めており、各自の実情に考慮している。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 個々に合わせた内容で法人内外での研修の参加の他、日常の会話の中でさりげなくアドバイスなどする事を意識している。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | コロナ以前は他施設とのお祭りの参加や研修会、見学会などを活用して交流していたが、現在は自粛している。 | | |

グループホーム ともだちの家

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価(ユニットI) | 外部評価(事業所全体) | |
|-----------------------------|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入所初期の不安な気持ちを考え、会話する機会を多く持つ様心がけて表情などからもくみ取る努力をして、信頼関係を築く努力している。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居後の生活の予想なども交えて良く話を聞き、入所後の本人の様子も伝えて、安心できるように努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ホームに慣れていただける様に考えつつ、その時に必要なサービスがあれば、都度話し合いをしている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 日常生活において一緒に作業する事を心がけて、支え合う関係を築けるようにしている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 毎月、写真入りの個別のお便りを送り、本人の様子が分かるように配慮して、相談なども必要時には速やかにおこない、関係性を大切にしている。 | | |
| 20 | 8 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 家族の協力を得ながら行えるケースもある。できる限りの努力はしている。 | 昨年は友人、趣味、宗教仲間の来訪は多くあったが、今年はコロナ禍から電話で交友を継続している方もいる。家族の支援でお墓参りや、馴染みのかかりつけ医の受診がある。文字を書く、折り紙細工をするなど関心がある場面作りも考えている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者同士の関係性を見ながら見守りして、必要時には間に入り対応する。他の利用者の洗濯物を干したり畳んだりしてお世話する場も見られている。 | | |

グループホーム ともだちの家

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価(ユニットI) | 外部評価(事業所全体) | |
|------------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | サービス終了後は会う機会はないが、日常生活で偶然お会いした時は挨拶したりする中で話がきけたりする事はあるので、努力している。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | 9 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日々の様子を記録したり、行動などからも把握に努めている。ケアカンファレンスなどでは本人本位となるよう、心がけている。 | 会話や様子を見て、好みなどの意向を引き出しながら把握している。センター方式シートの活用でアセスメントを行い、変化なども追記し、3ヶ月ごとの見直し際に意向を介護計画につなげている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 個人ファイルはいつでも見られるようにしており、把握に努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 毎日バイタル測定し、体調把握のほか、日常生活の様子を記録したりして、把握に努めている。 | | |
| 26 | 10 | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 職員皆でモニタリングし、月1回のカンファレンスでは意見を出し合っている。会議参加できない場合は書面参加している。 | 全職員がアセスメントを行い、計画表に沿ったモニタリング表に意見を書き入れている。それらをもとに計画作成担当者が評価、カンファレンスで確認し、家族の意向を取り入れて更新計画を作成している。日々の記録に変化なども記入している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の記録をつけ、申し送りなどで情報共有しながら、モニタリングやケアカンファレンスに活かしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | その時々で都度話し合いしながら、柔軟な対応に取り組んでいる。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 利用者を支えているつながりなどは大切に、楽しく暮らせるように支援していきたい。 | | |
| 30 | 11 | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居後も引き続き、かかりつけ医への支援をしつつ、必要時には適切な医療が受けられるように柔軟に対応している。 | 基本的には家族の対応で、かかりつけ医を継続している。各主治医と話し合い、電話や家族が薬を取りに行くなど状態に応じて柔軟に対応している。家族の事情や緊急時には職員が同行し、受診内容を共有している。 | |

グループホーム ともだちの家

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価(ユニットI) | 外部評価(事業所全体) | |
|----------------------------------|------|--|---|--|---|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 31 | | ○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 週に1回看護師が訪問し、心身ともに体調相談をし、必要時は受診につなげられるよう支援している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時は速やかに介護添書を提出し、本人の日頃の状態を伝えられるように努めている。入院中も電話や面会で病院関係者とやりとりして、関係づくりの努力をしている。 | | |
| 33 | 12 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居時点である程度出来ること、出来ない事などは話している。必要時にはその都度話し合いしている。 | 看取りが難しいことをパンフレットや対応指針の文書で提示し、利用開始時に同意を得ている。状態の変化に応じて関係者と話し合い、重度化してもケアの方法や調理を工夫して可能な限り対応している。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 救命講習は定期的受講し、実践力を身に付けられるよう努力している。 | | |
| 35 | 13 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回は避難訓練を実施し、町内会の方にも参加していただき、協力体制を築ける様努力している。 | 運営推進会議と同日に日中を想定した避難訓練を実施し、各災害時の避難場所を家族にも分かりやすく明示している。地震を想定しシミュレーションも行っている。今回、水害時の対応マニュアルを作成したので勉強会を検討している。 | 水害時の避難方法などを検討しているので、勉強会で話し合った内容を記録し共有できるように期待したい。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | 14 | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 一人ひとりに合わせ、声掛け内容や声の大きさなど配慮しながら対応している。 | 職員は研修でコミュニケーションや接遇について学んでおり、利用者の人格を尊重し優しく話しかけている。人目に付く場所に個人記録を置かないことを徹底している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 認知症の症状に合わせて、選択肢を出したりして声掛けを工夫して、自己決定できる様に努めている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 本人のペースで動いていけるように働きかけをして、希望に沿って支援できるように心がけている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 清潔感を大切にするとともにファッションの傾向に近づけられるよう心掛けています。 | | |

グループホーム ともだちの家

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価(ユニットI) | 外部評価(事業所全体) | |
|------|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 40 | 15 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | テーブル拭きやお盆拭きなど準備や片付けを出来る利用者と一緒に、職員も一緒に席に座り食事時間を一緒に過ごすようにしている。 | 利用者の好みを取り入れて調理しているが、外食や出前、寿司の実演調理などを取り入れ楽しめる取り組みをしている。苦手な食材の場合は代替食を用意し安心して食べられるように工夫している。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 一人ひとりに合わせ水分摂取目標量を定め、好みや食べる量など調整している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後口腔ケアの声掛け、支援を行い清潔保持に努めている。 | | |
| 43 | 16 | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 一人ひとりに合ったオムツの種類、パターンなど把握、調整し、失敗を減らせるよう支援している。 | 介護記録とバイタル表に水分、尿、便の記録を記入し、歩行訓練をしながらスムーズに排便できるよう配慮をしている。トイレ誘導は食事の前にさりげない声かけで失敗を少なくするようにしている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 食物繊維や乳製品などを意識して取り入れ、入浴時にお腹をマッサージしたり、歩く事の声掛けを行っている。 | | |
| 45 | 17 | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 3日に1度の目安で声掛けを行い、午前と午後と大まかに時間を分け、希望に沿って入浴していただける様支援している。 | 同性介助の希望に対応している。利用者が気持ちの良い入浴で寛げるよう声かけを工夫をしたり、タイミングをみて浴室へ誘導している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 夜間の睡眠に影響が出ない範囲で日中も休息を取り入れたり、声掛けし、安心できるよう配慮している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬の確認シートや内容表を活用しながら、薬局の薬剤師さんと連携を取りながら把握に努めている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | ボールなどのレクリエーションの他、洗濯干しや数字を読み上げたりなど、個々に合わせた力の活かし方に気を付けている。 | | |

グループホーム ともだちの家

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価(ユニットI) | 外部評価(事業所全体) | |
|------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 49 | 18 | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | コロナ以前は誕生日に希望に沿って外食したり、町内の行事などにいも参加していた。今年は行事なども中止が多く、いろいろ難しかったが家族の協力のもと、お盆の墓参りに出かけられた利用者もいる。 | 昨年は個別に誕生日外出やドライブ、買い物など自由に出かけていた。回数は少なくなったものの最近でもコンビニエンスストアまで散歩したり、庭の向日葵や朝顔を見に戸外へ出るようにしている。日光浴や外気浴などで利用者が戸外へ出ることが多い。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | お金は事務所預かりし、必要時には支援するが、なかなかお金を使う場面が少ない。家族と協力しながら手元にて少額管理している利用者もいる。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 携帯電話持ち込みの方は自由に使用していただいている。そのほか希望があれば、電話支援している。 | | |
| 52 | 19 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節に合わせた制作、飾りつけを行っている。温度や明るさなどに配慮しながら、ソファやテレビなど利用者の実情に合わせて配置している。 | 広くゆったりとした空間があり、廊下では歩行訓練をしている。明るく清潔な居間で自由にくつろぎ季節の壁飾りを作ったり、いきいき百歳体操をしている。空調にも配慮し、気になる音や光は感じられない。居心地のよい共有空間となっている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 廊下にベンチを設置し、人の気配を感じながら一人に慣れたり、気の合った利用者同士がおしゃべりできる様配慮している。 | | |
| 54 | 20 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居時にはなるべく使い慣れた物を持参していただき、生活していく上でその都度相談しながら工夫している。 | カーテン、照明器具以外は利用者の好みのもので持ち込んでいる。家族の写真やぬいぐるみなど心が落ち着けるものに囲まれ居心地よく暮らしている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | バリアフリーを活かし安全な生活が送れるよう配慮しており、何かあればその都度検討しています。 | | |

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|----------------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 0177500204 | | |
| 法人名 | たきかわ介護福祉サービス株式会社 | | |
| 事業所名 | グループホーム ともだちの家 ユニットⅡ | | |
| 所在地 | 滝川市西町2丁目3番47号 | | |
| 自己評価作成日 | 令和2年9月17日 | 評価結果市町村受理日 | 令和2年10月21日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|---|
| <p>毎日できる事をこつこつと(洗濯物干しやお盆拭き、歌をうたうなど)利用者職員とで穏やかにしながら安心して生活ができるように支援している。 利用者同士の交流を見守り、笑顔のあるホームを目指しています。</p> |
|---|

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

| | |
|-------------|---|
| 基本情報リンク先URL | https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0177500204-00&ServiceCd=320 |
|-------------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|-----------------------|
| 評価機関名 | 株式会社 サンシャイン |
| 所在地 | 札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F |
| 訪問調査日 | 令和2年10月5日 |

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|--|
| |
|--|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|--|----|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | 66 | 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | | |

自己評価及び外部評価結果

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価(ユニットⅡ) | 外部評価 | |
|-------------------|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I.理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | 1 | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 毎朝の申し送りにて理念を唱和し、共有、実践につなげられるよう努力している。 | | |
| 2 | 2 | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | コロナ禍で今年は様々な行事が中止となり、行事参加などでできていないが、地域の一員として、資源回収などで町内に貢献できるよう、できる事を続けている。 | | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | コロナ禍以前は、地域住民との体操や交流会で実際に見ていただいたりしていたが、現在は実施できていないため、認知症啓発月間に合わせて利用者の作品を提出したりと、できる事にすこしずつ取り組んでいる。 | | |
| 4 | 3 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 利用者状況や施設報告の他、様々な方面からの意見を聞く努力をしている。現在は書面会議なども取り入れ感染防止に留意しながら開催している。 | | |
| 5 | 4 | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 市の担当者の他、包括支援センターとも必要時には速やかに連絡相談をし、協力関係を築ける様取り組んでいる。 | | |
| 6 | 5 | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 研修報告や学習会の他、個々の実情に合わせてその都度話し合いを行ったり職員の理解、拘束しないケアに努めている。 | | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 研修や学習会など、改めた場でなくとも、カンファレンスや日常会話の中にもさりげなくアドバイスをし、防止に努めている。 | | |

グループホーム ともだちの家

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価(ユニットⅡ) | 外部評価 | |
|------|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 制度の活用が必要な時にはその都度活用できるように支援していきたい。現在は1名の利用者が本人の弟様を後見人になっている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居前に十分説明し、理解を得て契約している。改定などあれば、その都度書類送付したりして、理解を得ている。 | | |
| 10 | 6 | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 様々な方がいる中、面会人などにさりげなく意見や要望を聞く努力をしている。 | | |
| 11 | 7 | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎月のカンファレンス、隔月の全体会議などで意見を聞く機会があり、反映させられるようにしている。 | | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 勤務希望を聞いてシフト作成され、有給も取得しやすい雰囲気づくりを心掛け、向上心が持てるよう配慮している。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 研修会参加ばかりではなく、カンファレンスや日常場面でも個々に合わせたアドバイスなどして、トレーニングとなるよう努めている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | コロナ禍以前は他施設のお祭りなどに参加し合ったり、合同で研修会など開催しており、交流機会を設け、ネットワークづくりに努めていた。現在でも機会があれば、情報交換など行っている。 | | |

グループホーム ともだちの家

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価(ユニットⅡ) | | 外部評価 | |
|----------------------------|------|---|--|--|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居時は不安な気持ちを十分理解するようにして、コミュニケーションを多く図る努力している。 | | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 面会時に様子を伝えつつ、家族の困りごとや不安にも耳を傾けるようにして、関係づくりに努めている。 | | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人にとって居心地良いプランを探り、家族の要望も聞きつつ、カンファレンスで話し合い、柔軟な対応に努めている。 | | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 運営理念にもあるお互い様の心を忘れず利用者同士でも洗濯物を畳んだり、掃除をスタッフと一緒にしたりして支え合う関係を築ける様努力している。 | | | |
| 19 | | ○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ケアプランを通じてどのように本人を支えていくか家族と話し合う機会を作っている。 | | | |
| 20 | 8 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 本人の大切にしていた物など、自由に持ち込んでいただいている。そのほか、忘れかけてしまった思い出などを傾聴したり、生活歴を探り、話題提供などにも心がけている。 | | | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者同士でトラブルがないよう見守り、早めに仲裁に入るようにしている。皆で行えるレクリエーションを開催したりして、一体感を感じられるように努めている。 | | | |

グループホーム ともだちの家

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価(ユニットⅡ) | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | サービス終了後は会う機会はないが、偶然お会いした時は挨拶したりする中で話がきけたりする事はあるので、努力している。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | 9 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日常生活の様子や会話などからさりげなく把握するよう努め、カンファレンスで本人本位で検討できるようにしている。 | | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 事前面接での生活歴などは個人ファイルに収納し、いつでも見られ把握に努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 毎日のバイタル測定、日常の記録の他、サービス経過記録に簡潔にまとめたりして、把握しやすい様に努めている。 | | |
| 26 | 10 | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | カンファレンスで意見を出し合い、家族と本人にも意向を聞き、現状に即した計画を作成するよう努めている。 | | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個別記録の他、職員間で共有しやすい様に連絡ノートやサービス経過記録など活用している。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | その時々状況に対し、柔軟に対応できるように努力している。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域資源を把握しながら、本人が豊かな暮らしができるように支援していきたい。 | | |
| 30 | 11 | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入所前のかかりつけ医には引き続き通っていたりしており、受診時には日ごろの様子をメモにして、医療と連携図れるように支援している。 | | |

グループホーム ともだちの家

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価(ユニットⅡ) | | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|------|-------------------|--|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 31 | | ○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 週1回の看護師の訪問の他、24時間電話相談を活用しながら、看護職員と連携を図り、本人の暮らしを支援している。 | | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時には介護添書を添えて、本人が安心して治療できるように努め、できる限り入院中は面会に行き、情報交換、関係づくりに努めている。 | | | |
| 33 | 12 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | あまり早い段階だと家族もびんとこない事が多いため、タイミングを見ながら、必要時には話をして、関係づくりに取り組んでいる。 | | | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 定期的に救命講習を受講し、実践力を身に付けられるように努めている。 | | | |
| 35 | 13 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回避難訓練を行い、町内役員にも参加していたり、体制づくりに努力している。 | | | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | | |
| 36 | 14 | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 特に排泄や入浴などの声掛けや介助の羞恥心に配慮する様心がけている。かみ合わない会話でも察知し、配慮している。 | | | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 飲み物の種類や衣類など、理解しやすいよう選択肢を出したりして、自己決定できるよう努めている。 | | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 本人のペースや意思を大切にしながら、声掛け、支援するようにしている。 | | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 起床後の身だしなみ介助や日常において着用する衣類など本人の好みや清潔感に配慮しながら支援している。 | | | |

グループホーム ともだちの家

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価(ユニットⅡ) | 外部評価 | |
|------|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 40 | 15 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 嚥下に合わせお粥にしたり、刻んだりした配慮をして、食事を楽しめる様工夫している。テーブル拭きやお盆拭きなど一緒にいき、力を活かせるよう努力している。 | | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 水分量は毎日記録し、食事量も必要時にはチェックしたり、医師の指示がある時は守れるよう支援している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後口腔ケアの声掛けをし、清潔が保たれるよう心掛けている。 | | |
| 43 | 16 | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | おむつの種類や排泄パターンの検討、把握をし、失敗を減らしたり自立へ向けて努力している。 | | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 食物繊維、乳製品を取り入れる他、提供する牛乳を温めたり、冷たくしたりして排泄パターンに合わせて提供している。 | | |
| 45 | 17 | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 大まかに午前午後と時間を決め、本人の体力やその日の状況、パターンなどをもとに声掛けして支援している。 | | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 夜間の睡眠状況を見ながら、日中に休息の時間を設けたり、消灯後でも希望者にはテレビを観ていただいたりして、安心して眠れるよう支援している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬の内容表は常に確認できるようファイリングしている。確実に内服できるようにチェック表も活用している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 毎日の役割(洗濯干し、たたみなど)を習慣にして、やりとげた充実感を味わえるように支援している。 | | |

グループホーム ともだちの家

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価(ユニットⅡ) | | 外部評価 | |
|------|------|--|---|------|-------------------|--|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 49 | 18 | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | コロナ禍以前は誕生日や行事で外食や外出機会はあったが、現在は自粛しているため、ホーム前での散歩程度にとどまっている。 | | | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | トラブル防止のため現金は事務所預かりしているが、希望があり必要時には手元で保管できるように家族と相談して柔軟に対応はしている。 | | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 携帯電話持参の方は自由に使用していただいている。希望があれば、家族へ電話はつないでいる。 | | | |
| 52 | 19 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節ごとに皆さんが作成した飾りなどを壁にかざり、季節感を感じれるように工夫している。 | | | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 廊下や居間にベンチ、ソファを多く配置して、人の気配を感じながらゆったり過ごせる場所づくりに配慮している。 | | | |
| 54 | 20 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居時に本人のなじみの使い慣れた物を持参していただくようにして、居心地よく過ごせるように工夫している。 | | | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | バリアフリー構造としており、手すりなど使用できるよう心掛けている。必要時には居室に目印など付けたりしている。 | | | |

目標達成計画

事業所名 グループホームともだちの家

作成日：令和 2年 10月 20日

市町村受理日：令和 2年 10月 21日

【目標達成計画】

| 優先順位 | 項目番号 | 現状における問題点、課題 | 目標 | 目標達成に向けた具体的な取り組み内容 | 目標達成に要する期間 |
|------|------|---|-------------------------------------|--|------------|
| 1 | 35 | 災害対策において、水害時のマニュアルを作成したばかりで職員に周知できていない。 | 水害マニュアルを職員皆で共有し、イザという時のために勉強会を開催する。 | 10月のスタッフ会議内の研修内容を水害マニュアルを軸にして、火災や地震など、その他のおさらいをしつつ災害時マニュアルを共有できるようにしていく。 | 3か月 |
| 2 | | | | | |
| 3 | | | | | |
| 4 | | | | | |
| 5 | | | | | |

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。